

平成 22 年 5 月 12 日現在

研究種目：若手研究（B）  
研究期間： 2007～2010  
課題番号：19730135  
研究課題名（和文） 「コラボレーター」としての沖縄保守勢力—アメリカのヘゲモニー支配と沖縄  
研究課題名（英文） Okinawan Conservatives as “Collaborator”

## 研究代表者

吉次 公介 (YOSHITSUGU KOSUKE)  
沖縄国際大学・法学部・准教授  
研究者番号：40331178

研究分野：社会科学  
科研費の分科・細目：政治学 国際関係論  
キーワード：沖縄 保守 アメリカ

## 1. 研究計画の概要

米軍統治下における、沖縄の保守勢力の動向を探ることを目的とする。特に、沖縄の保守勢力と米軍当局のダイナミクスを解明する。沖縄の保守勢力が、米軍の「コラボレーター」として機能していたのではないかと仮説を、一次資料によって裏付けたい。

なお、この研究課題に取り組むにあたっては、アメリカの対日・対沖縄政策や、日本の対米・対沖縄政策についての考察も行う必要がある。

## 2. 研究の進捗状況

まず、先行研究の整理を行い、「戦後沖縄『保守』勢力の現状と課題」と題する論考を發表し、先行研究の問題点を指摘し、本研究の手法を明確化させた。すなわち、従来の戦後沖縄政治史研究において保守勢力は否定的に描かれる傾向が強く、かつアメリカ占領当局との妥協と対立のプロセスが十分に描かれていないということである。よって本研究は、戦後沖縄保守勢力の「限界」だけでなくその「成果」を視野に入れ、かつアメリカ施療当局との対立と妥協のプロセスを描く。これにより、戦後沖縄政治史がより立体的に把握できるものと思われる。

作業としては、沖縄県公文書館、沖縄国際大学図書館など沖縄県内における資料調査を実施した。主な調査対象は、米民政府（USCAR）の史料、米務省の史料、沖縄の地元紙（『沖縄タイムス』と『琉球新報』）である。

補足的に、日米両政府の外交文書や研究書・論文などに関する国立国会図書館での調

査も行った。その他に特記すべきこととしては、自民党沖縄県連史『戦後六十年沖縄の政情』の編纂にあたった自民党沖縄県連参与の川上朝健氏にインタビューを行ったことである。戦後保守の歩みだけでなく、史料状況もご教示いただいた。自民党沖縄県連には、文書史料は全く残っておらず、県連史編纂にあたっては、新聞とインタビューに頼らざるをえなかったとのことであった。

なお、本研究事業の一環として収集していた日米両政府の外交文書を部分的に活用した研究成果として、『池田政権期の日本外交と冷戦』を岩波書店より刊行した。これは、沖縄の保守勢力の動向に深くかかわる日米関係や冷戦状況に関する筆者の理解を深めるという点で、本研究事業にも大きく寄与するものである。

## 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

先行研究の把握は順調に進み、研究手法の見直しなどは不要であることが確認できた。

また、沖縄県内および東京での史料調査によって、沖縄の保守勢力とアメリカ占領当局の関係を示す史料を十分に入手することができた。

ただし、予想以上に多くの史料が入手できたという僥倖ゆえに、その整理・読解に当初の予定よりも時間がかかるという結果となっている。

## 4. 今後の研究の推進方策

史料の整理・読解のスピード・アップが求められるが、史料の読解は極めて慎重に行う必要があるため、拙速となることは避けねば

ならない。

丁寧かつ慎重に史料の読解・分析を進め、できるだけ早い時点で論文の執筆に着手したいと考えている。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

吉次公介「戦後沖縄『保守』勢力研究の現状と課題」『沖縄法政研究』第12号、151-162頁、2009年、査読なし

[図書] (計1件)

吉次公介『池田政権期の日本外交と冷戦』岩波書店、2009年、総266頁